

秋田県から北海道へ

氏名 三浦 睦美

秋田県由利本荘市立由利小学校 → 北海道登別市立幌別小学校
(期間：平成27年4月1日 ～ 平成29年3月31日)

1 秋田県や由利本荘市の教育

○ 秋田県の教育

『豊かな人間性を育む学校教育』を目標に、ふるさと教育の充実、発展を基軸とし、地域と連携したキャリア教育の充実や英語コミュニケーション能力の育成を重点に掲げている。中でも、生きる力を育み自立した社会人となることを目指した“「問い」を発する子ども”の育成を最重点の教育課題として、具体的な手だてを示して取り組んでいけるようにしている。全ての教職員が、「チーム秋田」「チーム〇〇小(中)」として共通理解し、同じゴールを目指していけるように、行政と学校が連携を密にして努めている。



○ 由利本荘市の教育

由利本荘市は、農・工一体化の地域社会として発展してきている背景から、科学的な探求心を育み、確かな学力を身に付けさせる教育を推進してきている。その際、教育・人材育成の基本を「子どもに“寄り添い、導き、育てる”」点に置き、活動を展開している。

確かな学力の形成に関しては、3つの大きな柱を立てて推進している。

◇指導方法の工夫改善

- ・基礎・基本の定着を図る学習指導の推進
- ・個に応じた指導、支援の工夫
- ・授業スタイルの構築、活用による授業改善
- ・ノートを活用、板書の工夫等
- ・「問い」のある学習活動の推進
- ・英語学習、外国語活動の充実

◇授業研究協議会及び研修会の充実

- ・市学力向上訪問の活用(国語、算数、理科、外国語)
- ・教育専門監の積極的活用(算数・数学、理科)
- ・広域3ブロック制による授業実践研究会

◇各種事業の積極的運用及び活用

- ・体験型理数教育の推進(リアルサイエンス事業)
- ・学力対策委員会による学力向上の推進
- …等

2 学校や地域の特色ある教育活動

○ 由利本荘市立由利小学校（派遣元校）の取組

H26年度は、「目的意識をもち、共に学びあう子どもの育成」という研究主題のもと国語科を窓口として実践してきたが、文科省より英語教育強化事業の委託を受けたことを機に、英語教育にも力を入れて取り組んできた。ここでは主に、英語科・外国語活動について紹介する。

◇全学年英語に親しむ時間の設定

	火曜日	金曜日
朝の活動（13分間）		外国語活動：1～5年、英語科6年
3校時		6年小学校英語科
4校時		4年外国語活動
5校時	5年外国語活動	
6校時	3年外国語活動	

※H27年度は、5年生も英語科として実施している。

朝の活動では、1・2年生はALTやイングリッシュサポーターと英語に慣れ親しむ時間、3～5年生はアルファベットの読み書きや簡単な英会話を練習する時間とした。6年生はフォックス、スピーキング（パフォーマンス）テスト、簡単な英単語を書く時間に充てて実施した。

◇学習題材や教材の開発

① 3～5年生における外国語活動の実践

児童の発達段階を考慮しながら、英語の発音や基本的な表現に慣れ親しませることに重点を置いて実践した。2学期以降は中学年向けの市販教材“Hello, Kids!”を購入し、3・4年生が年間35時間の学習ができるように体制を整えていった。

5年生は、H26年度初めての外国語活動になったため週に1時間としたが、扱う単語や会話表現を増やすなど、コミュニケーション活動をレベルアップして実施した。

② 6年生における英語科の実践

英語科の授業を進めるにあたっては、中学校と連携を密にして行ってきた。外国語活動で重視しているコミュニケーション活動を重視しながら、「読むこと」「書くこと」を授業の中にバランスよく位置づけた。昨年度は、中学校のスピーチコンテストにも参加し、英語を学習する目的意識をもたせ、意欲が持続するようにした。

③ 相手意識・目的意識を持たせる英語学習

毎年12月に、イギリスの小学校とクリスマスカードを交換している。4～6年生が「こんな内容を英語で書きたい」という意欲から、ALTやイングリッシュサポーターと積極的に関わってカードを作成する姿が見られた。また、6年生は毎年11月から2月までの間、アメリカの小学生とビデオレターの交換もしている。得意なことや好きなことなど既習の会話文を使って意欲的に会話練習に取り組み、撮影している。

クリスマスカードもビデオレターも、自分宛に送られてきたものを手にして、英語を介して関わった満足感を味わうことができた。

国際教養大学（A・I・U）との交流も取り入れている。5年生は1回、6年生は2回教養大を訪問し、留学生と交流する。

反応やアイコンタクト、ジェスチャーなどの態度面のコミュニケーションも重視しながら、既習の単語や英語表現を駆使しながら会話を楽しんでいる。

2月には留学生が来校し、全校児童とふれあったり5・6年生の授業に参加したりもしている。



留学生と会話が弾みます。
笑顔やアイコンタクトも重要だね。

3 私が取り組んできた実践

派遣元校では、3年間学級担任として、その後3年間は研究主任として在籍した。後半は、研究主題を具現化するための立案や準備、検証など裏方の仕事が多かった。ここでは、その一部を紹介する。

○ 家庭学習の質の向上を目指した取組

- ・手引きの作成

学校の方針を示した全校版を作成した。使用するノートの様式も記載し、学年の系統が分かるようにした。これをもとにして、学年にあった手引きが作成された。

- ・家庭学習強調週間の実施

各学期に1回、強調週間を設定した。カードを使用して取り組んでいくのだが、ねらいや実施方法を知らせたり、雛形となるカードを作成したりした。また、1日に1学年ずつ校長先生にノートを提出する日も設定して、子どもの励みとなるようにした。

- ・家庭学習ノート展示会の実施

各学期に1回、参観日にあわせて設定した。学級から4～5冊提出してもらいホールに展示した。子どもたちが参考にしたり保護者への啓蒙になったりと、プラスの面が多くあった。ノートを提出してくれた子どもへの賞状なども作成した。

○ 学習習慣の定着のための取組

- ・学習強調週間の実施

正しい姿勢で座る、はっきりと返事をする等、基本的な学習習慣の項目を見直すことができるカードを作成した。学年の発達段階に合った項目をB6程度のカードにし、机の右上に貼って使用する。毎日自己評価をしていくことで、意識の向上につながった。

- ・学習スキル表の作成、活用

小、中学校9年間を見通した学習スキルに修正を加え、フラッシュカード等を準備してそれらが浸透していくようにした。

○ 言語能力を高めるための取組

- ・ことば集会の立案、準備、指導

全校児童が一堂に会して声を出す楽しさを体感する集会を年に6回行っていた。各学年が持ち回りで担当になり、会を進行させたり音読の発表をしたりする。

初めに行う口のトレーニングの内容を決定したり準備したりする他、音読の指導も行った。

- ・ことば遊び、ことばのスケッチの実施

語彙を豊かにする目的で年間の計画を立て、準備をした。参考作品を紹介したり蓄積したりする活動も行った。



口のトレーニングタイムです。
高学年がお手本となります。